

授業科目	処方設計学特論 Design of Prescription			担当教員	大磯 茂、山口 拓		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1-3年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
1) 医薬品の効果及び副作用を適切に評価できる。 2) 医薬品の効果及び副作用評価後の対応を適切に判断できる。 3) 症例の問題点、医薬品の効果及び副作用を適切に評価し、最適の処方立案できる。 4) 提示された症例の処方設計支援案を作成できる。							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	症例及び処方例の問題点を適切に指摘できる。			授業態度	20%		
思考・判断	医薬品の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。			レポート	20%		
技能・表現	症例及び処方例の問題点及びその解決策について、自らの意見を発表できる。			口頭発表・討論	20%		
知識・理解	米国のCDTMについて正確に理解し、説明できる。 提示された症例のPBPMプロトコル案を作成できる。			レポート	40%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
2回のレポート 60%(思考・判断：20%、知識・理解：40%)と関心・意欲・態度：20%及び口頭発表・討論：20%で総合的に評価する。							
授業の概要							
薬物療法が有効かつ安全に行われるために薬剤師の果たす役割は大きく、医薬品の適正使用及びセーフティマネジメントの実践が欠かせない。今日、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進が求められ、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコルに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施することに薬剤師の積極的な活用が期待されている。本講義では、チーム医療を支える薬剤師が、適切かつより高度な薬物療法を患者に提供できるようになるために、プロトコルに基づく薬物治療管理 (Protocol-Based Pharmacotherapy Management ; PBPM) を提案できる能力を培うことを目指す。また、米国で実施されている、医師の診断を前提とした、医師と薬剤師の合意による治療プロトコルに基づく薬物治療管理 (Collaborative drug therapy management ; CDTM) についても学ぶ。							
教科書・参考書							
教科書：なし							
参考書：							
・チーム医療を円滑に進めるためのCDTMハンドブック—問題解決のための手順書、土橋朗ほか監訳 薬事日報社 2010. ・Collaborative Drug Therapy Management Handbook, Tracy SA, Clegg CA, Amer Soc of Health System 1版 2007.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業に関連する文献を検索し、その内容を吟味する習慣をつけてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	医薬品の適正使用と医療安全	医薬品の適正使用および医療安全について討議する。(大磯)	予習：医薬品の適正使用に関する最新の情報や通知等を検索しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
2	がん化学療法処方例の問題点及びその対応策	がん化学療法症例の問題点及びその対応策を討議し、最適の処方立案する。(大磯)	予習：抗がん剤およびがん化学療法レジメンについて調べておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
3	緩和医療処方例の問題点及びその対応策	緩和医療症例の問題点及びその対応策を討議し、最適の処方立案する。(山口拓)	予習：疼痛緩和に処方される医薬品について整理し、その処方例を検索しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
4	在宅医療処方例の問題点及びその対応策	在宅医療症例の問題点及びその対応策を討議し、最適の処方立案する。(大磯)	予習：在宅医療症例に関与する多職種役割を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
5	経管・静脈栄養処方例の問題点及びその対応策	経管・静脈栄養症例の問題点及びその対応策を討議し、最適の処方立案する。(大磯)	予習：経管・静脈栄養剤の種類とその相違点を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
6	嚥下・摂食障害患者処方例の問題点及びその対応策	嚥下・摂食障害症例の問題点及びその対応策を討議し、最適の処方立案する。(山口拓)	予習：嚥下・摂食障害の症例報告を検索しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
7	米国の CDTM	米国の CDTM に関する知識を確認、整理する。 (山口拓)	予習：米国の CDTM の概要を調べておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
8	米国の CDTM と日本の医療	米国の CDTM 実践例の文献を読み、日本の医療制度、現状と比較する。(山口拓)	予習：米国の CDTM 実践例の論文を検索しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
9	高血圧症の処方設計支援	高血圧症症例の PBPM プロトコル案を作成する。 (山口拓)	予習：降圧薬を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
10	糖尿病の処方設計支援	糖尿病症例の PBPM プロトコル案を作成する。 (大磯)	予習：糖尿病治療薬を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
11	脂質異常症の処方設計支援	脂質異常症例の PBPM プロトコル案を作成する。 (大磯)	予習：脂質異常症治療薬を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
12	血栓塞栓症の処方設計支援	血栓塞栓症症例の PBPM プロトコル案を作成する。(大磯)	予習：血栓塞栓症治療薬を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
13	抗菌薬の処方設計支援	病院における抗菌薬投与に関する PBPM プロトコル案を作成する。(山口拓)	予習：抗菌薬及び PK/PD 理論を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
14	免疫抑制剤の処方設計支援	病院における免疫抑制剤投与に関する PBPM プロトコル案を作成する。 (大磯)	予習：免疫抑制剤を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習
15	在宅医療の処方設計支援	地域薬局における在宅医療症例の PBPM プロトコル案を作成する。(大磯)	予習：在宅医療の問題点を整理しておくこと。 復習：当該授業内容の整理・復習